

# 菊の花の開花

主幹教諭 中村 昌子

このところ、朝晩の気温も肌寒さを感じるようになり、秋の深まりを実感する日々です。76回目の学校の誕生日となるきくまつりがもうすぐです。今年も猛暑にかかわらず、夏休みの間も畑委員会の子どもたちや1・2年生のチャボ・畑当番の子どもたち雑草抜きや水やりの世話をがんばってくれました。もちろん、プールの時などに自分の畑を気にして立ち寄っている子どもたちもたくさんいました。その甲斐あって、今畑の作物は元気に育ち、収穫の時を待っています。そして、春から一人一鉢ずつ育ててきた菊たち。今年は10月になってから大きな台風が2度もやってきて、全校で菊の避難をしました。そのたびに菊の鉢を校内に避難させたり、また菊棚に戻したり、とても大変な作業ですが、全校をあげてみんなで協力し無事菊を守ることができました。そして今、菊棚では少しずつ菊の開花が始まっています。ただ、少し心配なこともあるのです……。

1年生以外の皆さんはご存じのことですが、昨年度からきくまつりの日程をそれまで長く続いてきた「11月3日」から一週間遅らせました。その要因は、年々夏の猛暑が当たり前のように続くようになり、菊の生育状況が以前と変わってきたことです。これは菊という植物が、暑さにあまり強くない性質があり、自ら夏の暑い時期に成育のスピードを止めてしまうということが起きていたからなのです。そのため、ようやく9月以降気温が下がり始めると一気に成長のスピードを早め、11月頃に開花をするわけなのですが、9月も暑い日が続くと開花の時期が少しずつ遅くなり、11月3日のきくまつりにはまだつぼみの状態のものが多くなってしまったわけです。そこで昨年は思い切ってきくまつりの日程を一週間遅らせれば、菊の満開の時期ときくまつりが合うのではないかと考えたのです。その計画は見事にあたり、きくまつりが行われた11月9日には、学校いっぱい色とりどりの菊が咲きそろうことができました。今年も、このところの猛暑からいけば昨年通りの菊の生育が予想され、年間計画の中で11月8日をきくまつりと設定したのです。

ところが、今年は予想外に昨年とは異なり、9月の残暑が思ったほど長く続かず、比較的過ごしやすい気温が早めに訪れたのです。菊たちはちゃんとそれを察知し、一気に成長の速度を速めていきました。

話が少しそれますが野外で生育する植物は気温や日長時間を自ら感じて、花芽をつけたり、開花をしたりします。キク科の植物は短日植物といって、夜の長さが11時間以上続くと花芽をつけ、そこから次第につぼみに成長し、開花へと続いていきます。通常「花芽」というつぼみの赤ちゃんができてから開花するまで2ヶ月あまりで菊は開花するそうですが、その間の気温が低い日が続くと開花が早まると言われていました。

本校の菊たちも、人間たちの思惑を見事に裏切り、この気温の変化を自ら感じ取り、開花を始めています。きくまつりまであと二週間。もしかするときくまつりには菊の満開の時期が過ぎてしまうかもしれません。これが自然と調和していくむずかしさなのでしょう。是非お子さんと今の菊の様子をお話しされ、どうぞお時間がありましたら早めに菊棚の菊を見に入らしてください。さて、来年のきくまつりはどうしましょう。今から頭を悩ませています……。

